Berlin Report

April 2020

CONTENTS

* Project 1: KPM Hotel & Residences / Hotel & Kitchen

* Project 2: Das Stue / Hotel

1. KPM Hotel & Residences

Project Overview

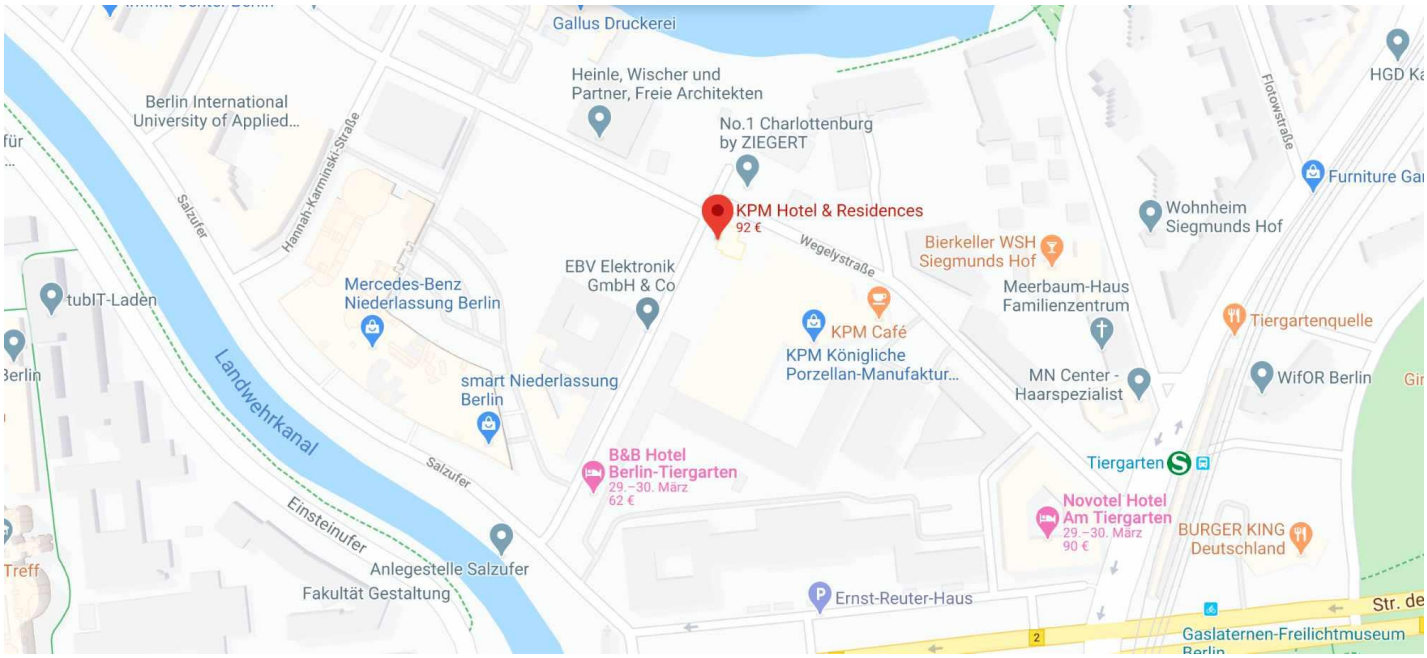
創業 1751 年の歴史ある王立磁器製陶所「KPM」。ベルリンの工房で一つずつ手作業でつくられる繊細で抜けるように白い磁器は、ベルリンを代表するプロダクトの一つだ。その製陶所が、昨秋、工房の敷地内にホテルをオープンして話題を呼んでいる。磁器メーカーだからといって部屋中に商品を飾るようなことはせず、あくまでもさりげないプレゼンテーション。装飾を削ぎ落としたモダンなインテリアで、ここ数年 KPM が打ち出しているシンプルで実用的なデザインのラインをイメージ付けることの方に力を入れた。
モノトーンの中でも硬質な白を多く取り入れ、大きな窓から差し込む光がその白さを強調する。
1 階にはアジア創作料理のレストランがあり、ここではもちろん KPM の器を使うだけでなく、器を壁にかけるなどして、内装のアクセントとしても取り入れている。
また、ホテル内には会議室ならぬ「コミュニティ・キッチン」がある。食器をつくるメーカーだからこそわかる、食卓の重要さ。食卓こそが多くの人が心からリラックスしてコミュニケーションを可能にする場所である、という考えでつくられたスペースは、イベントスペースとして借りることができる。もちろん食器は KPM で揃えた。
宿泊することで、こんな時代だからこそ食卓や器の重要性、価値が実感できるホテルなのだ。

Project Details

1. Type of Business : Hotel, Kitchen
2. Open Date: 24/09/2019
3. Location: Englische Strasse 6, 10587 Berlin
4. Size: 117 rooms, 58 Service Apartments
5. Interior design: Axthelm Rolvien / In-house (KPM)

Photo: © White Kitchen

LocationMap



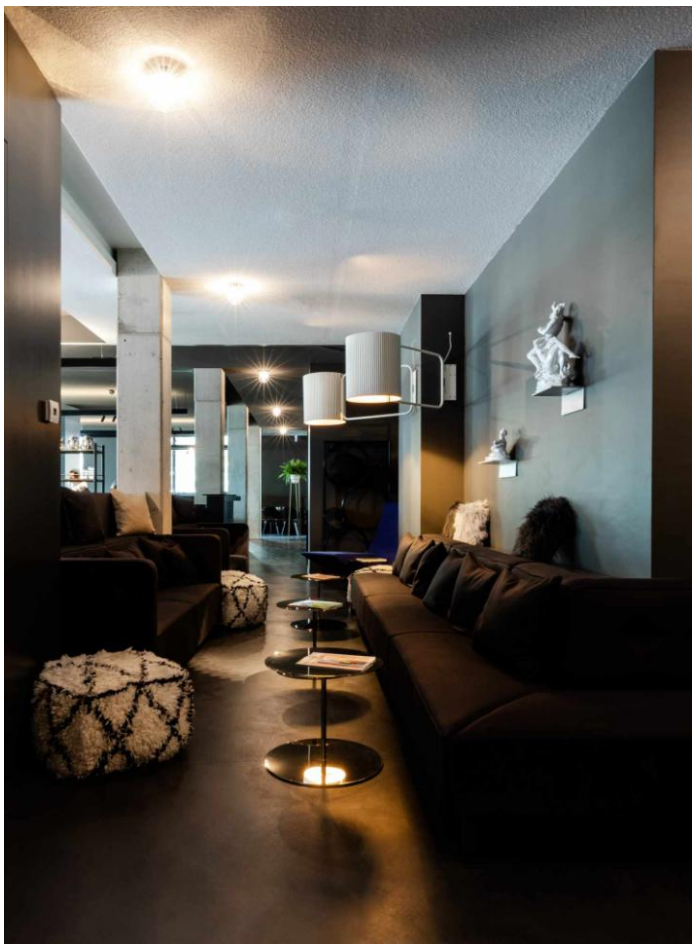
レセプション。コンクリート打ちっぱなしの柱や壁が、磁器の小物の繊細さを引き立てている。

約 30 平米のスペリオールルーム。家具やリネン類は白を中心に、床は明るい色の木材で温かみを添える。

各部屋にパントリーがついているのもこのホテルの部屋の特徴だ。

コミュニティ・キッチン。12 人座れる大きな食卓とバーカウンター。キッチンアイランドはミュンヘンに 17 世紀からあるキッチンブランドのもの。

廊下も案内表示も白 x 白で統一



ロビーの壁には KPM の磁器のオブジェが飾られている。

2. Das Stue

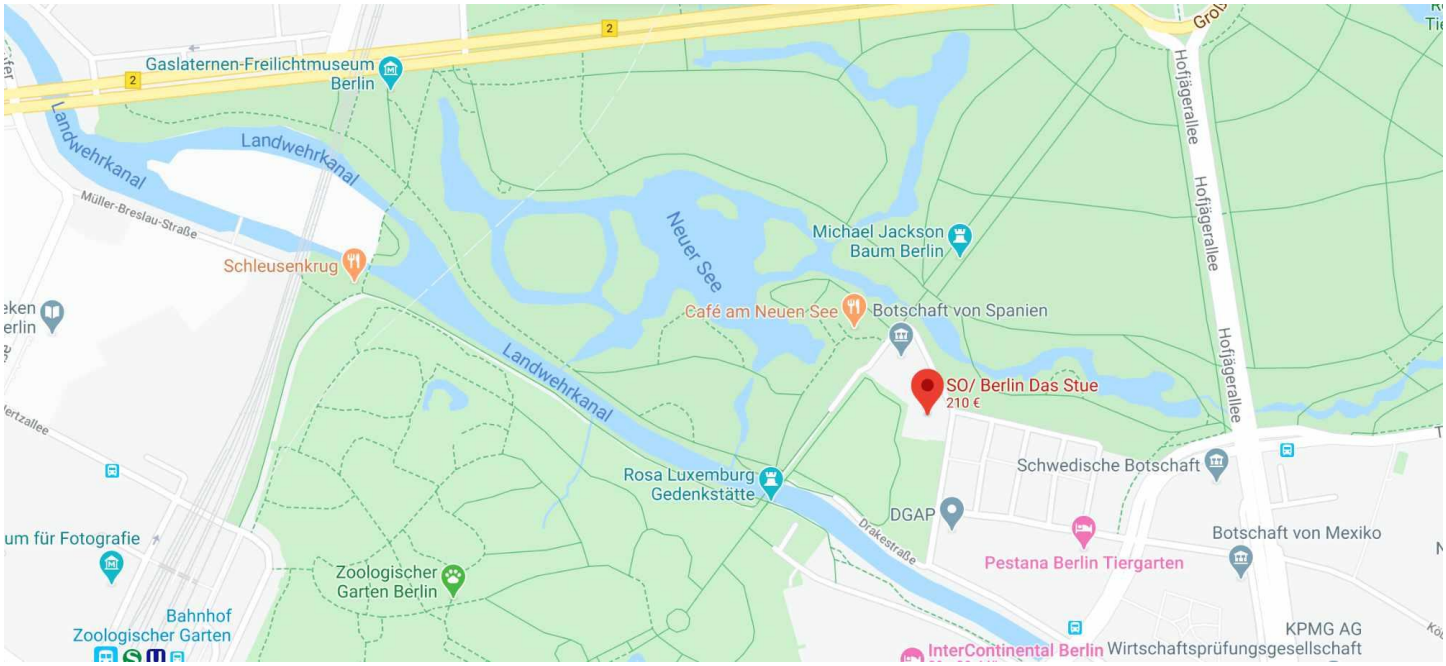
Project Overview

1939 年に完成したデンマーク大使館をリノベーションした 5 つ星プラスのホテル「ダス・シュトゥー」。
新古典主義の重々しい歴史を感じるファサードはそのままに、内観にはモダンであたたかい自然素材を多く使ったデザインを取り入れた。手掛けたのはスペインのスターデザイナー、パトリシア・ウルキオラ。
フローリングの濃茶色を基調に淡いグレーやベージュトーンで統一し、小物でビビッドカラーを加えている。
ホテル名はデンマーク語で「居間」という意味で、その名前のとおり家にいるような居心地の良いくつろげる空間づくりを心がけたという。
そのコンセプトを実感できるのが、大使館時代の階段が印象的な広い踊り場を改装したパブリックスペース。壁面をアートやデザイン本を集めた本棚で埋め、低いソファーを配置した書斎のような空間だ。
ホテルの周囲を囲むのは、ドイツで 2 番目に大きな 200 ヘクタールの公園と動物園。町の中心部にありながら見渡す限り自然が広がる。宿泊客のリピート率が 50%以上というのも納得の居心地のよいデザインホテルだ。

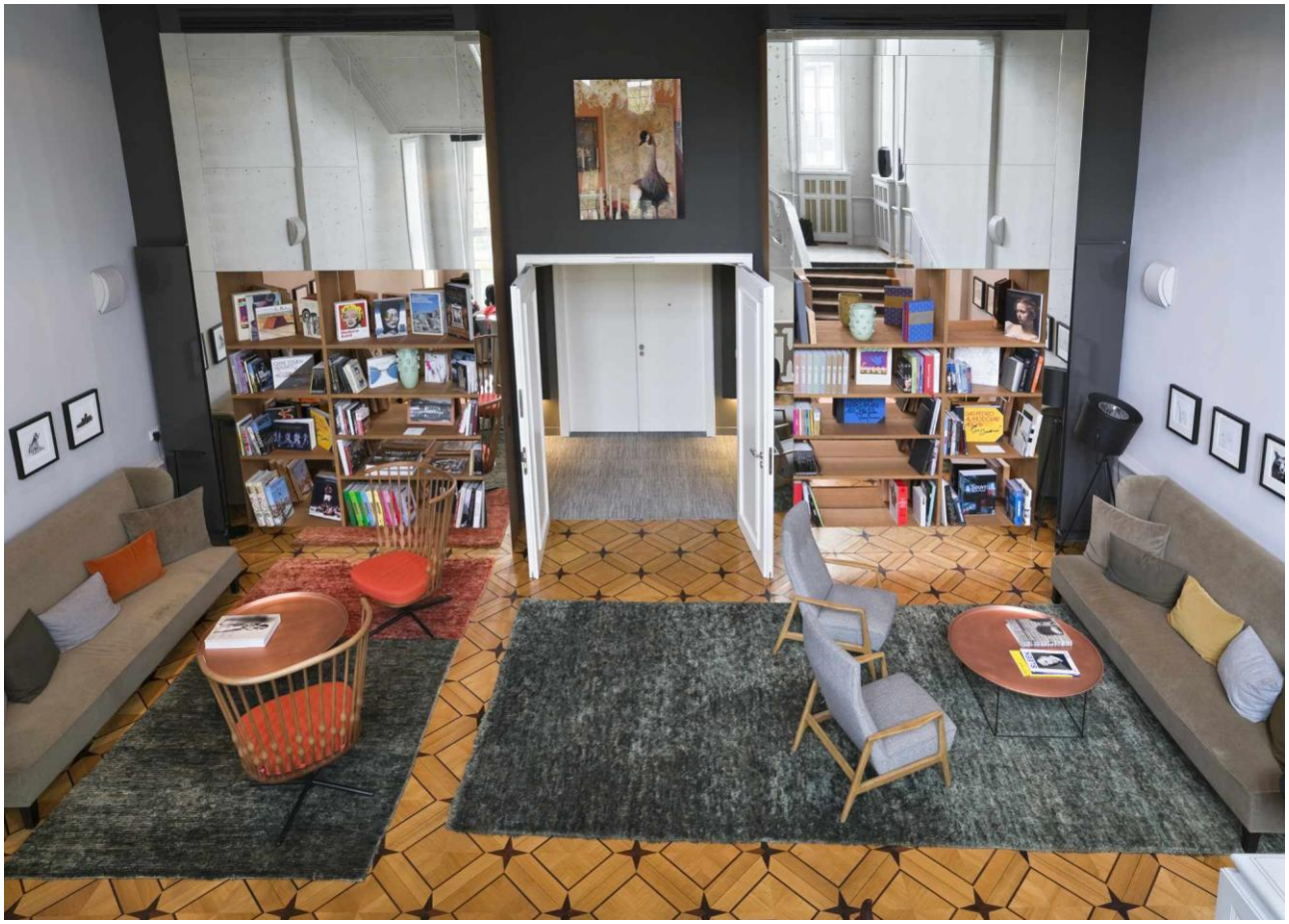
Project Details

1. Type of Business : Hotel
2. Open Date: 17/01/2013
3. Location: Drakestrasse 1, 10787 Berlin
4. Size: 78 Rooms & Suites
5. Interior Design: Patricia Urquiola

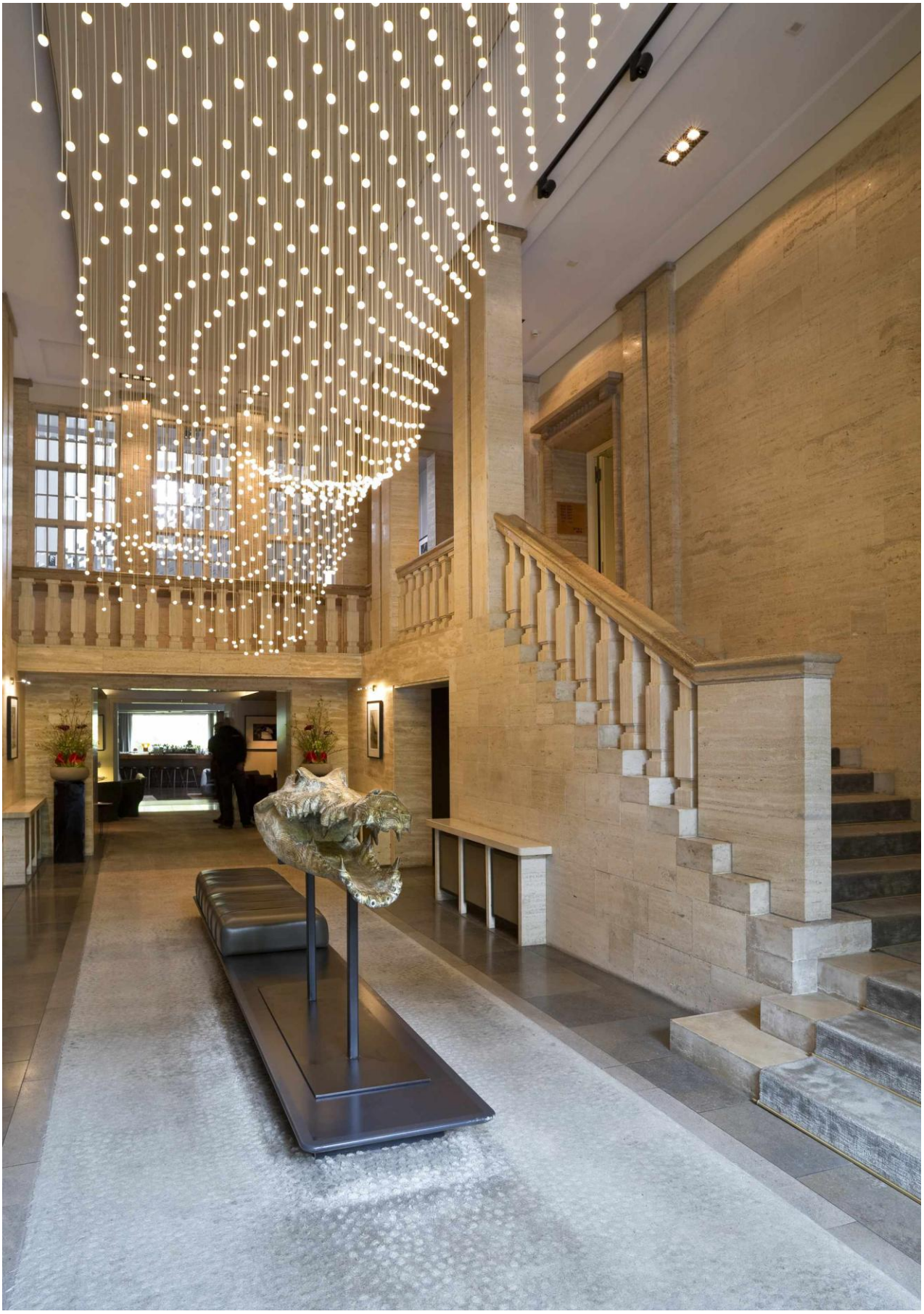
Location Map



落ち着いた色合いのフローリングと木の家具に、ソファや絨毯のモチーフなどで色を加えている。



階段の踊り場にあるパブリックスペース。ホテル名の「居間」を体現する空間だ。



ホテルのエントランス空間にはアート作品が置かれ、重々しく、ともすれば威圧感さえある建築のイメージを和らげている。

踊り場のパブリックスペース。大きな窓から差し込む柔らかな光に満たされている。家具はミッドセンチュリースタイル。